

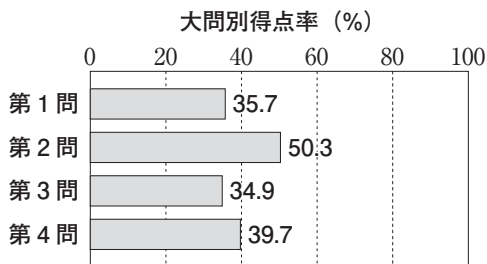
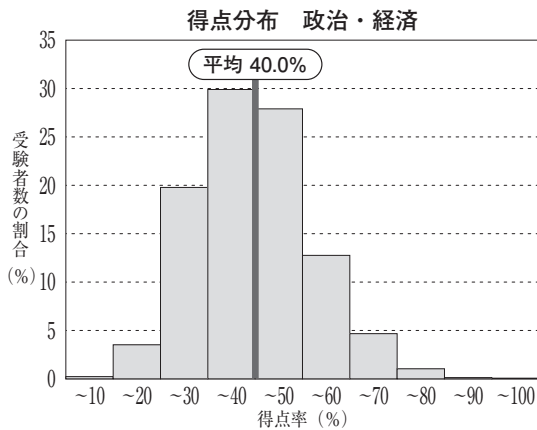
政治・経済

夏期に向け手薄な分野，難解な個所を補強し，実力飛躍を期そう。

I. 全体講評

6月実施の「全国統一高校生テスト 政治・経済」における受験学年の平均点は40.0点であった。時間の宝庫である夏期には、手薄な分野・難度の高い項目の制覇をして、実力を飛躍させよう。

第1問は「戦後の国際関係」。冷戦時代の軍縮条約について、各条約の理解・整理、さらに戦後の米・ソ、第3世界の大きな歴史の流れと、冷戦終結後の地域紛争についての再確認が必要である。第2問は「選挙と政党」。小選挙区制・比例代表制などの選挙制度の基礎知識が不足していた。特色と日本の選挙制度について、整理・理解しておこう。第3問は「国際通貨体制」。戦後世界経済を為替面から変動を理解しよう。第4問は「国民所得と景気循環」。GDPと国富の基礎知識、デフレーターを使った計算、市場での需給曲線など、理論的な側面を強化しておこう。



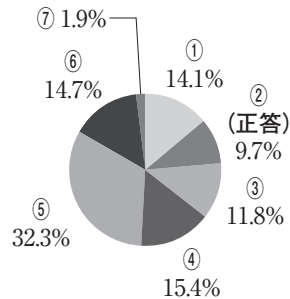
II. 大問別分析

第1問 戦後の国際関係

戦後の冷戦時代の核拡散と軍縮，ソ連崩壊後の民族・地域紛争を把握しよう。

第1問の得点率は35.7%と、やや低調であった。問4 [4] は第3世界とも呼ばれる非同盟諸国の歴史について、正答率18.4%と、ほとんど選択が分散しているので、手薄な分野であったようだ。民族紛争や内紛についての問9 [9] は正答率29.9%。正答率よりも④を選んだ受験者の割合が高く、コンボとルワンダの位置を混同していた。非核地帯条約に関する問5 [5] は正答率31.8%。盲点的な個所であろう。

問8 [8]



※注) 無回答・マークミスは割愛したため、選択率の合計は100%にならないことがある。

CTBT (包括的核実験禁止条約) に関する問題。正答率9.7%という結果であった。最も選択率が高かった⑤は正文のBを誤文とし、誤文のAとCを正文としているので、まったくの逆である。これを期に、正確な理解を心がけたい。

第2問 選挙と政党

選挙制度の特色と歴史，政党との関係を具体的に制度とともに理解しよう。

第2問の得点率は50.3%。全問中最も高い得点率であった。しかし、弱い部分もあった。選挙制度の特徴を問う問7 [17] は正答率28.4%。小選挙区

制が2大政党制を目指したものであることは基礎知識である。選挙制度の特徴を再整理しておきたい。その他、衆・参の選挙制度の違い、(非)拘束名簿式、ドント式、合区など制度と法規なども補強しておこう。世代別投票率のグラフ読み取り問題である問4 [14]は正答率36.6%であった。⑤の選択率が正答率よりも高く、Aを正文と判断してしまっていた。第二次安倍政権の発足時期が頭に入っている間は間違えない部分である。インターネットと選挙についての問8 [18]は、さすが時代に敏感で、良く出来ていた。

第3問 国際通貨体制

国際通貨体制の歴史と経済政策の流れを把握しておこう。

第3問の得点率は34.9%。全4大問中最低であった。通貨制度の変遷について問う問6 [24]は、正答率6.2%であった。全部が正文とする虚をつく設問に惑わされたか、2つを正文とする選択肢に3分散していた。AIIBについての問8 [26]は正答率23.7%で、選択が分散していた。中国の海外覇権を狙う一帯一路政策とAIIBへの各国の動きを時事ニュースでも注視しよう。ユーロについての問7 [25]の正答率は29.1%。最近のEUの政治状況も時事ニュースで気をつけておきたい。ドル危機の内容についての問4 [22]は正答率33.5%。90年代の湾岸戦争を選択した受験者が4割を超えていた。戦後史の基礎を確認しておこう。為替相場の変動要因についての問2 [20]の正答率は37.4%。為替変動の要因と影響を整理しておこう。

第4問 国民所得と景気循環

マクロ・ミクロの経済知識の基礎をしっかり理解しておこう。

第4問の得点率は39.7%と、平均的であった。ストックとしての国富について問う問7 [33]は正答率8.5%であった。「海外の金融資産を含まない」を選択したものが半数以上いた。さらに国内の金融資産が相殺されゼロになることを理解していなかったようだ。国富の定義を再確認しておこう。問8 [34]のGDPにかわる指標については正答率29.5%。GDPデフレーターを使った名目GDPから実質GDPへの計算問題である問3 [29]は約半数が正答していた。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆戦後の政治・経済史を概観しておこう。

政治・経済は、現在の事象を過去に遡って理解する場面が多い。近い歴史、特に戦後の歴史事項が現在の政治・経済につながっており、大きな流れと因果関係をつかむ必要がある。年号を暗記するのではなく、相互の関係を把握すれば良い。問題にぶつかったらすぐ教科書や参考書で歴史的流れをつかむようにしよう。

◆難解な計算問題などに取り組む。

これからの夏期の時間は、教科書でも難解な箇所、計算問題などにじっくり取り組む好機である。過去問で類似問題を捜し、完全に身につくまで理解すれば半年後の本番でも忘れずに得点出来るであろう。

◆過去問・演習問題を必ず解いてみよう。

過去問・演習問題で類題をこなしているうちに、自分の弱点や出題傾向がつかめるようになる。そして用語集や参考書も脇に置き、疑問を持ったら即、調べて、一つでも多くの項目に目を通したい。本番でたった一つ用語を知っていたため正答選択が出来ることも多い。また、メディアで見た時事問題が教科書と直結することも多い。そうした経験があれば、政治・経済を学ぶことが楽しくなるだろう。